令和元年度放射線教育フォーラム第3回勉強会案内

**【開催趣旨】**

　正しい科学的理解、リスクコミュニケーション、対話的な学びなど、いま、

放射線教育には様々な取り組みが要求されており、どれ一つとっても一筋縄で

はいかない問題を抱えています。今回の勉強会は、そうした一筋縄ではいかな

い、手強い三つの課題を取り上げ、固定観念に縛られることなく、放射線教育

について幅広く考える機会としたいです。講演後に総合討論の場を設けました

ので、参加者を交えた活発な討論を期待しています。

**【開催概要】**

　日　時　　令和２年３月１日(日)　１３：００～１６：５０

　会　場　　東京慈恵会医科大学 高木２号館南講堂（港区西新橋3-25-8）

主　催　　ＮＰＯ法人放射線教育フォーラム

共　催　　東京慈恵会医科大学 アイソトープ実験研究施設

参加費　 資料代として1,000円　　懇親会参加費：1,500円

**【プログラム】**

13:00　開会挨拶　　　　　　放射線教育フォーラム理事長　　長谷川　圀彦

13:10 講演１　　ＤＮＡを知り、自分が放射線を怖がるわけを知る

― 進化・突然変異育種・ゲノム編集作物・ガン ―

 　　　名古屋経済大学市邨高校　　　　　　　　　大津　浩一

14:00　講演２　　認知の齟齬と対話による相互理解

― 放射線は嫌い、でもＣＴ検査は受けるよね ―

           　　　東京慈恵会医科大学 臨床医学研究所　　　 吉澤　幸夫

　　　　　　　　　　　　　　　　　休憩

15:10 講演３　　科学議論における市民の役割

ＮＰＯ法人 知的人材ネットワーク あいんしゅたいん

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 坂東　昌子

16:00 総合討論

16:50　閉会

懇親会（17:00～18:30）　　東京慈恵会医科大学高木２号館南講堂

**【参加申込】**

**NPO法人放射線教育フォーラムのホームページ（http://ref.or.jp）のトップ**から参加申

し込みをしてください。**申し込み締め切りは２月２４日（月）です**。

**ホームページから参加登録が出来ない場合は**

次のフォーマットを利用して申し込みください。申し込み締め切りは２月２４日（月）です。

以下を copy & paste してentry@ref.or.jp　宛に送信してください。

又はファクス（FAX:03-3843-1080）してください。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

２０２０年３月１日（日）開催の放射線教育フォーラム令和元（２０１９）年度第３回勉強会に参加を

申し込みます。

氏名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（ふりかな：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

住所：〒

　　　連絡先：電話　　　　　　　　　　　　　　　　　　　又はメールアドレス

次の＜＞内に＜〇＞印をつけて返送ください。

●　勉強会に:　　　　：　＜　＞勉強会に参加します

●　懇親会に　　　　：　＜　＞参加します　＜　＞参加しません

●　会員の種類　　　：　＜　＞会員、　　　＜　＞会員外

●　所属(元職も可)　：

●　今夏の勉強会の議題についてご自由にお書き下さい。

　　回答を入力：

●　NPO法人放射線教育フォーラムについてご自由にお書きください。

　　回答を入力：

 \*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

お問い合わせ先：「ＮＰＯ放射線教育フォーラム」事務所　まで次の電話またはファクスまたはメールで。

TEL: 03-3843-1070 FAX:03-3843-1080

　　　　　　　　　　　　メール：entry@ref.or.jp

勉強会会場案内は別途添付を参照ください。

**【講演要旨】**

講演１　　ＤＮＡを知り、自分が放射線を怖がるわけを知る

― 進化・突然変異育種・ゲノム編集作物・ガン —

 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　大津　浩一

たいていの人は放射線を怖がる。また、怖がるべきである。ただ、怖がり過ぎても怖がらなさ過ぎてもいけない。進化・突然変異育種・ゲノム編集作物・

ガンを通してDNAをいろいろな角度から眺めれば、正しく怖がる理由を持てる

のではないかと思うようになった。

講演２　　認知の齟齬と対話による相互理解

― 放射線は嫌い、でもＣＴ検査は受けるよね ―

           　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　吉澤　幸夫

コンフリクト・マネジメントは、紛争の解決だけでなく幅広い分野に応用で

きるスキルである。例えば、児童の問題行動の原因とされる心理的葛藤もコン

フリクトの一種である。教育コンフリクトにはこのように顕在化するものと、

気づかれないまま潜在化するものが存在する。コンフリクトの存在下では、科

学的な知識を語っても聴衆に拒絶されてしまう。お互い見えている世界が違う

ことを理解することが、公衆に受け入れてもらう第一歩となる。

講演３　　科学議論における市民の役割

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　坂東　昌子

３・１１以後、放射線の生体影響について極端に評価が分かれ、風評被害と

かトランスサイエンスという言葉が飛び交った。個別科学の深化の時代だった

2０世紀から、環境、健康など分野横断的な課題に取り組む時代なのに、それに

応じた科学界の体制が希薄なことを痛感した。このギャップをつなぐのは、現

代情報社会の中で育った市民であることを、様々な取り組みを通じて痛感した。

この経験を皆さんと共有したい。